

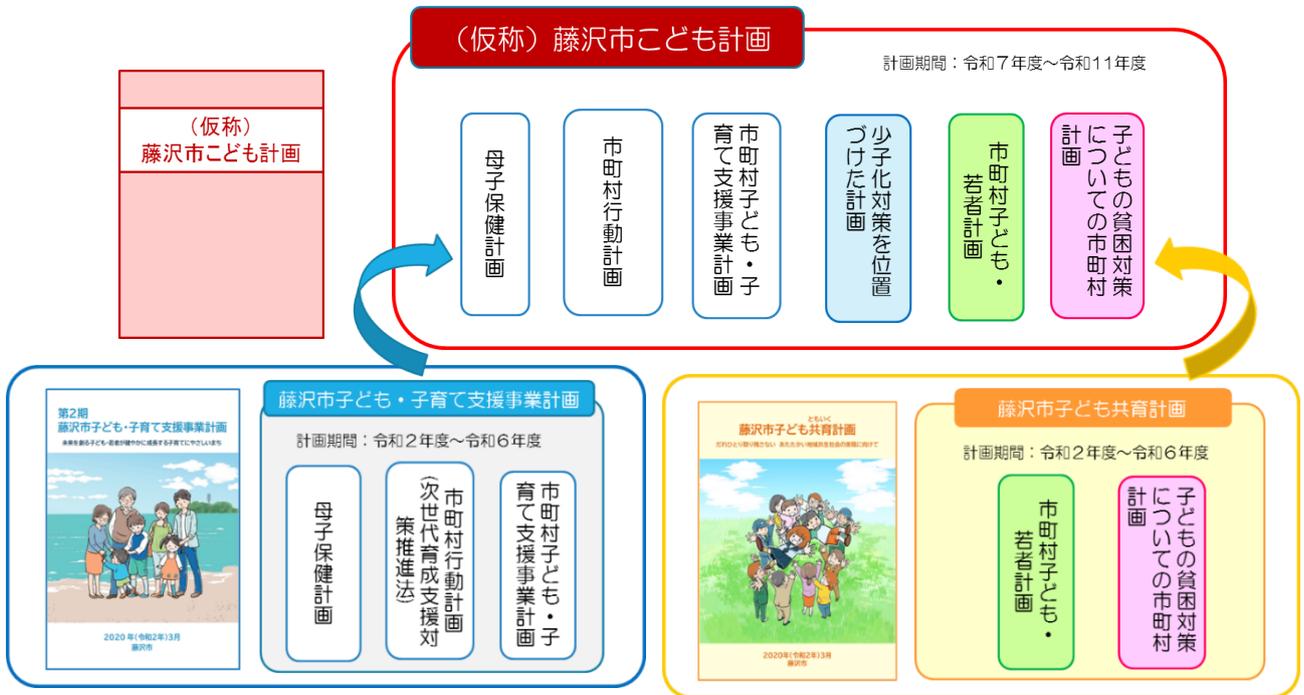
(仮称) 藤沢市子ども計画の策定に係る基礎調査の結果について

1 (仮称) 藤沢市子ども計画について

令和6年2月藤沢市議会定例会子ども文教常任委員会において、本市の「(仮称) 藤沢市子ども計画」の策定に関するポイントとイメージについて、報告を行いました。

※計画策定のポイントとイメージ

- ・令和5年12月に閣議決定された国の子ども大綱を勘案する
- ・都道府県子ども計画（当該計画が定められているとき）を勘案する
- ・法令の規定により市町村が作成する計画であって、子ども施策に関する事項を定めるものと一体のものとして作成可能



2 基礎調査の結果について

令和6年度中の策定を予定している「(仮称) 藤沢市子ども計画」の策定に向けて、令和5年度に次のとおり基礎調査を実施しましたので、その結果を報告するものです。

(1) 藤沢市子どもと子育て家庭の生活実態調査

ア アンケート調査

(ア) 調査目的

子育て家庭の所得水準等の経済状況、子どもや子育て家庭の生活状況、子どもの学習状況、子どもや子育て家庭の抱える課題や支援ニーズ等の多面的実態把握

(イ) 調査対象

- 5歳児の子どもを持つ保護者
- 市立小学校及び市立特別支援学校小学部の5年生の児童本人及びその保護者
- 市立中学校及び市立特別支援学校中学部の2年生の生徒本人及びその保護者

- (ウ) 調査方法（対象者全て同じ）
 郵送又は各学校経由の配布及び郵送回収

(エ) 配布・回収状況

	配布数	有効回答数	回答率
5歳児保護者票	3,749件	2,198件	58.6%
小中学生保護者票	7,528件	2,941件	39.1%
うち、小学生保護者	3,913件	1,574件	40.2%
うち、中学生保護者	3,615件	1,114件	30.8%
うち、判別不能	—	253件	—
小学生票	3,913件	1,644件	42.0%
中学生票	3,615件	1,143件	31.6%
合計	18,805件	7,926件	42.1%

イ 支援者ヒアリング調査

(ア) 調査目的

実態調査のアンケート調査からは十分に把握することが困難な、子ども、若者、子育て家庭の状況、抱える課題や支援ニーズ等の実態把握

(イ) 調査対象

- a 様々な困難を抱える子どもや子育て家庭と普段から接点を持っている関係者・支援者
- b 社会資源調査回答者のうち子ども・若者の居場所を主な活動とする団体

(ウ) 調査方法

- a ヒアリング調査シート及びその回答状況に基づくヒアリング調査
- b オンライン会議方式によるグループヒアリング

(エ) ヒアリング状況

子育て世代包括支援センター、児童相談所、小・中学校をはじめとした16分野24カ所の施設・団体を対象としてヒアリングを実施

ウ 社会資源調査

(ア) 調査目的

市内にある子どもの居場所等の活動状況や、子どもや若者の支援ニーズ、市の施策への意見等の把握

(イ) 調査対象

市内にある子どもの居場所の運営など子どもや若者を支援している施設や団体等

(ウ) 調査方法

対象となる施設・団体への電子メールによるアンケート調査依頼及び専用フォームにアクセスして実施するオンライン回答による回収

(エ) 配布・回収状況

配布数	有効回答数	回答率
256件	47件	18.4%

※有効回答数は、調査依頼対象ではないが、専用フォームで回答した1団体を含む

(2) 利用希望把握調査

ア 子ども・子育て支援に関する利用希望把握調査

(ア) 調査目的

幼児期における教育・保育・地域の子育て支援に関する現在の利用状況や今後の利用意向の把握

- (イ) 調査対象
市内在住の小学校就学前児童（0～4歳）のいる世帯
- (ウ) 調査方法
郵送配布及び郵送回収
- (エ) 配布・回収状況

配布数	有効回収数	回収率
6,000件	2,687件	44.8%

イ 放課後児童クラブに関する利用希望把握調査

- (ア) 調査目的
学童期における放課後児童クラブに関する現在の利用状況や今後の利用意向の把握
- (イ) 調査対象
市内在住の5歳児及び小学1～4年生までの児童のいる世帯
- (ウ) 調査方法
郵送配布及び郵送回収並びにWeb回答
- (エ) 配布・回収状況

配布数	有効回収数	回収率
6,000件	2,771件	46.2%

(3) 基礎調査の結果に係る特徴的なポイント

- ア 世帯の生活状況
 - (ア) 母親のフルタイム就労率の増加
 - (イ) 母親の就労をしていない割合の減少
 - (ウ) 世帯における共働きの割合の増加
 - (エ) 母親の育児休業の取得率の上昇（主にフルタイム勤務の増加に伴うもの）
 - (オ) 父親の育児休業の取得率の上昇
- イ 保護者の状況
 - (ア) ひとり親世帯（2世代同居／3世代同居）は相対的に困窮層及び周辺層に分布する割合が高い。
 - (イ) 困窮層に該当する保護者は生活満足度が低いと回答した割合が高い。
- ウ 子どもの状況
 - (ア) インターネットやゲームの中を「ほっとできる居場所」と回答した割合が一定数存在している。
 - (イ) 生活満足度が低い子どもは、自分の家や学校などを「ほっとできる居場所」と回答した割合が低い。
 - (ウ) 困窮層の子ども、生活満足度が低い子ども、ひとり親世帯（2世代同居）の子どもは学校の授業がわからないと回答した割合が高い。
 - (エ) 生活満足度が低い子どもは自己肯定感が低く、ひとりぼっちだ、家族の仲が良くない、家で落ち着いて勉強できない、身近な人を相談相手にできないと感じている割合が高い。
- エ ウェルビーイング
 - (ア) 「生活満足低位」は、5歳児保護者は8.2%、小学5年生保護者は10.2%、小学5年生子どもは5.2%、中学2年生保護者は13.3%、中学2年生子どもは11.6%。
 - (イ) 子どもの生活満足度は親の生活満足度と相関関係にあり、その傾向は中学2年生の子ども及び保護者において、より顕著にあらわれる傾向がある。

オ 保護者の意見

(ア)「保護者の就労、子育てとの両立に関する悩み・支援」、「子どもの教育、進学、教育費に関する悩み・支援」や「子育て世帯への経済的支援、家計の悩み」など経済的な側面に関する悩みや「子どもの居場所」や「子育てに関する相談・講座・仲間作り」などが、5歳児・小学5年生・中学2年生のどの層の保護者にも共通した悩みや要望として挙げられる。

カ 子どもの意見

(ア) 悩んでいる子どものために必要なこととして、「気軽に悩み相談できる場所・工夫」や「学校内（先生・スクールカウンセラー等）の相談・いじめ・不登校対策」が小学校・中学校ともに上位に挙げられている。

(イ) 困っていることについては、小学校では「友達との関係・いじめ・人間関係の悩み」、中学校では「勉強・授業・学校生活全般の悩み」が上位となっている。

キ 子どもの居場所運営者や支援者ヒアリング等での意見(今後力を入れるべき施策・課題)

(ア)「相談体制の充実」

(イ)「不登校対策・支援」

(ウ)「関係機関・団体の連携」

(エ)「民間団体に対する支援」

(オ)「子育て世帯への支援」

(カ)「子どもの預かり、保育に関する支援」

(キ)「居場所の拡充」

(ク)「公園や遊具の整備」

(ケ)「学びの環境整備・学習支援」

(コ)「障がい・発達障がい児に関連する支援」

※ 「活動に係る人員、資金及び物資の確保」が課題とされる。

3 今後の予定

以上の基礎調査の結果から、庁内での検討や藤沢市子ども・子育て会議での審議等を経て、令和6年度中に、「(仮称)藤沢市こども計画」を策定します。

令和6年	6月	追加調査
	7月～9月	計画策定に向けた市民向けワークショップの開催や子ども・若者への説明・意見聴取 9月市議会定例会子ども文教常任委員会において計画骨子(案)の報告
	10月～12月	計画(素案)の検討 12月市議会定例会子ども文教常任委員会において計画(素案)の報告 パブリックコメントの実施
令和7年	1月～3月	計画(案)の検討 2月市議会定例会子ども文教常任委員会において計画(案)の報告 計画の確定

以上

(事務担当 子ども青少年部子育て企画課)